



【市営松山町住宅】



【能代港 循環資源取扱支援施設】

安岡 明雄

市民の声

菊地 時子

日本共産党

### 現役世代の減少に対応する市長のプラン

【問】郊外農地を開発し上下水道完備で便利な地域づくりを進展する道。あるいは郊外の土地開発は停止しインフラの維持・更新コストを勘案する道。どちらの道に導こうと考えているか。

【答】都市計画マスタープランで、現在の用途地域を市街地エリアと位置づけ市街化を誘導し、市街地エリア外については新たな開発を極力抑制することを都市構造の方針として定めており、まちづくりの方向は用途地域内に開発を誘導することを基本とし、市街地が拡大することについては抑制しようとするものである。

### 乳がん検診事故への説明責任を果たすべき

【問】正当化するような市の説明では問題は解決できない。事故原因をしっかりと検証し、受診率向上に悪影響を及ぼさないよう、全力を傾注することが大事。具体的な対応を求め。

【答】市では今回の事故を受け、保健師や放射線技師による事故防止に向けた対応など、再発防止策を能代山本医師会病院と取り決めてしている。これらを市ホームページに掲載するとともに、受診時には丁寧に、よりわかりやすい説明を心がけるなど、安心して受診できるよう対応していきたい。

#### その他の質問事項

- 畠町新拠点の取り組みが発展する提案
- 市営住宅整備とまちづくりの整合性
- ふるさと教育をどう展開していくか

### 障がい者の居住支援計画の推進

【問】精神障がい者支援をめぐって、自立や社会復帰に向け地域で生活するための受け皿不足が課題である。知的障がい者からも自立のための宿泊施設を望む声があるが推進の考えは。

【答】市内に精神障がい者のグループホームが1施設と少なく、知的障がい者の短期入所施設も郡内の施設を多く利用している状況であり、利用者からは市内に設置してほしいとの声がある。市としても居住支援計画促進を図るには、社会福祉法人等の協力が欠かせないことから、既存事業者と今後の事業について検討したい。

### 通学路の安全点検・歩行者の安全対策

【問】全国で通学途中の生徒や買い物途中の歩行者が暴走車にはねられ亡くなるという、痛ましい事故が相次いだ。歩道のない通学路や狭い歩道など危険箇所の点検や対策は。

【答】通学路の危険箇所を教育委員会で調査した結果、35カ所が報告され、そのうち早急に対処すべき6カ所は現在一部改善されている。残り29カ所についても改善に向け取り組んでいる。安全対策については、歩道や路側帯から出ないなど具体的な指導のほか、年度始めの交通安全教室の実施等により安全確保に努めている。

#### その他の質問事項

- 難聴者のための磁気ループの設置
- 自転車レーン走行の安全対策
- 雇用促進住宅能代宿舎の有効活用